

International GAP（国際的適正農業規範）対応の食料管理専門職業人の養成

ニュースレター No.2 (2012.04.04)

発行：GAP 事業推進室 TEL/FAX：0985-58-7165 E-mail：muigap@cc.miyazaki-u.ac.jp URL：http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/muigap/

大学農場で日本初の JGAP 認証を取得



農場スタッフの皆さん（JGAP 認証書を囲んで）

宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター 木花フィールド（農場）は 2011 年 12 月 13 日、JGAP 認証（JGAP 青果物 2010）を取得しました。大学農場としては日本初。29 品目も同時に認証を受けるのは他に例がありません。

農学部では本事業初年度の大きな目標として、農場の JGAP 認証取得に取り組んできました。今後は、JGAP 認証農場を活用した教育プログラムを開発していきます。

JGAP 取得についての記者会見

農場の JGAP 認証取得を受け、宮崎大学は 2 月 6 日、記者会見を行いました。会見には菅沼龍夫学長、村上昇農学部長、西脇亜也木花フィールド附帯施設長、國武久登 GAP 教育企画委員会副委員長が出席。菅沼学長は、「JGAP 認証を取得した木花フィールドを基盤として、食の安全管理に適切に対処できる専門職業人を輩出し、地域農業の活性化に貢献していきたい」と述べられました。



JGAP 認証書を手にする菅沼学長

中国における食の安全意識の現状は？

第 9 回 FD/SD 研修会を 3 月 5 日、農学部で開催しました。今回は中国の西北農林科技大学の崔永杰副教授が「中国における食の安全意識の現状」と題して講演しました。崔氏は中国 GAP の仕組みを詳しく解説した後、中国で起きた食の安全に関わる事件を具体的に紹介。「マスコミが報じて大きな社会問題となった。厳罰化とともに消費者の意識の向上が必要」と述べました。また今後の日中大学間の協力強化にも言及。中国、日本における GAP の普及を訴えました。

研修会には農学部 23 人、他学部 7 人、学外 3 人と多くの参加があり、食の安全に対する関心の高さがうかがわれました。参加者からは「中国の食の安全意識がよく分かった」「中国の意識も日本と同じようになってきている」「(中国では) 経済的な観点に意識が向きやすい」「GAP の必要性や今後の日中協力で興味があった」などの感想が寄せられました。



FD/SD 研修の様子

企業との情報交換

会社説明会で宮崎大学を訪れる「食」に関連する企業に本事業を紹介し、企業が求める人材像について情報交換しています。これまでに 25 社の人事担当者と面談しました。

JGAP 認証取得記念シンポジウムを開催

～GAP 指導者養成について意見交換～

農学部は2月29日、附属図書館視聴覚室で「木花フィールド JGAP 認証取得記念シンポジウム」を開催しました。村上昇農学部長、岩本俊孝教育・学生担当副学長の挨拶の後、二つの基調報告『宮崎大学が取り組む GAP 教育プログラム』（御手洗正文 GAP 教育プログラム実施委員会委員長）、『木花フィールド JGAP 認証取得の取り組み』（西脇亜也木花フィールド附帯施設長）が行われました。

次に「GAP 指導者をどう養成するか」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネリストは、宮崎県営農支援課 上原剛氏、JA 宮崎経済連 中村博氏、日本 GAP 協会 武田泰明氏、イオンアグリ創造 藤井滋生氏、新福青果 新福秀秋氏、大野和朗 GAP 教育プログラム実施委員会副委員長の6名。コーディネーターは國武久登 GAP 教育企画委員会副委員長がつとめ、GAP の普及・実践現場からの意見を聞きました。

GAP 指導者に求められる資質としては、農業の生産技術から経営までを総合的に指導できる能力、農家とのコミュニケーション能力、現場のリスク管理能力、機械・情報技術の知識、国際的な視野などが挙げられました。いずれも基礎的な素養として、状況に応じて柔軟に発想し行動する能力が重要になります。求められる資質は非常に多岐にわたっており、今後は大学院教育も含めて GAP 教育のあり方を検討していく必要があります。

閉会にあたって、菅沼龍夫学長、川村修実行委員会副委員長が挨拶。その後、農場の視察が行われ、整備された圃場や施設を見ながら活発な議論が交わされました。

シンポジウムには、教職員・学生49名のほか、学外から23名が参加。学外の内訳は、自治体2名、JA4名、他大学・高校3名、情報関連企業5名、小売業9名と幅広い業種でした。また地域別では、埼玉1名、東京4名、福岡1名、大分1名、鹿児島1名と、県外各地からの参加もありました。

参加者からは、「宮崎大学の人材育成は、今後の農業指導者の方向性を考えるうえでも重要」「5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）が行われているとても良い農場だ」「土づくりから収穫、調製までの生産工程を実習することが重要」などの感想・意見が寄せられました。



(写真上から) パネルディスカッションの様子、温室見学の様子（今後GAPに基づいた学生実習を行う予定の温室）、木花フィールド内見学の様子



参加者全員での記念撮影

『International GAP 対応の食料管理専門職業人の養成』ニュースレターは、宮崎大学の人材養成の取り組みを広く紹介するために、農業法人や食品関連企業などの関係者に配信しています。このニュースの配信を希望される方を募集中です。GAP 事業推進室までご連絡下さい。